

氏ノ黨友カ内閣ニ得シ所ノ權力ヲ以テ足レリトセス後幾時ナラスシテ其職ヲ辭スルノ意ヲ示セリ而シテメルヴイル公ヲ彈劾スルニ際シ曾テ官位ニ任セラル可キノ約束ヲ受ケタルハイリー、アヂントン氏及ヒボン下氏ハ共ニ政府ノ意見ニ反對スルノ發言起立ヲ爲セシヲ以テ終ニピット氏トアヂントン氏トノ間ニ異議ヲ生シアヂントン氏ハ爲メニ其職ヲ辭スルニ至レリ如此ク政黨ノ争亂ノ熾ナルニ際シ專ラ内閣ヲ保護スル者ハ唯ダ王ノ權力アリシノミ

王カピット氏ト其意見ヲ異ニスルノ點唯一アリト雖モ是レカ爲メニ再ヒ王トピット氏ノ交情ヲ破ルカ如キアテサリキ如何トナレハピット氏ハ先キニ一千八百一年ニ於テ王ニ約セシ所ニ從ヒ更ニ王ノ一生ノ間ハ舊教黨政權回復

ピット氏舊教
疑問ヲ東閣ス
ル

ノ疑問ヲ起サ、ルヘキ旨ヲ再約シタレハナリ然レモ王ハ此約束ヲ以テ尙ホ足レリトセスシテ内閣ニ於テ毫モ官吏懲約條例(按)官吏ヲ懲シテ舊教ヲ非トノ一字一句モ改正スルノ意ナキトテ公告セントテ要求セリピット氏ハ此要求ヲ肯セサリシト雖モ然レモ氏ハ勉メテ王ノ禁スル所ヲ犯サ、ラントニ注意シ佞令ヒ他人ニ於テ之ヲ犯サントスル者アルモ氏ハ止ムヲ得スシテ是ニ抗シタリ如此ク宰相ハ其意見ヲ枉ケシヲ以テ王獨リ議院ノ政畧ヲ指揮スル所トナレリピット氏ハ王ノ信用ヲ恢復スルヲ得タリト雖モ王ハ尙ホ自家ノ獨立ナル意見ヲ立テ國家ノ政治及ヒ恩典ノ事ニ關シテ大ニ權ヲ行ヘリ王ハ議院ノ討論ニ注意スルコト往時ニ異ナラス又演説ノ長短及ヒ可否決ノ數ヲ熟視シ加之

千八百六年グ
レンヂル公
ノ内閣

政府ノ黨務調整ノ至ラサル所アルヲ指示スルニ至レリ
英國ハ歐洲諸國ト相連合シテ佛國ト戦ヒダリシカ此同盟
兵ノ大敗ヲ取り非常ノ不幸ヲ蒙ルニ際シピット氏死セシ
ヲ以テ王ハ再ヒ其信セサル所ノ人々ヲ舉ケテ内閣ヲ組織
セサル可カラサルニ至レリ即チグレンヂル公及ヒフックス
ス氏ヲ首トシソノ他ノ人才ヲ網羅セシ所ノ新内閣ヲ承諾
セサルヘカラサルニ至レリ而シテ王ハ身ヲ以テ親クフツ
クス氏ト交ハリシカ爲メニ稍々氏ヲ憎ムノ情ヲ減シタ
リト云フ當時シドマウス公ハ議院ニ於テ強固ナル一黨
友ヲ組織セリ公ノ傳記ヲ編輯セル記者ノ語ヲ以テ之レヲ
云ヘハ公ハ夫ノ軍備中立（按）甲乙ノ二國戰爭ヲ爲スニ當リ
軍備ヲ爲ノ甲乙ノ侵犯ヲ防クニ萬レニモ與ミセス自國ノ
國公法ニ於テ之ヲ軍備中立ト云フニ類スル一黨ヲ組織シ

エレンボロ
公内閣ニ入ル

其勢力強大ニシテ之ヲ輕視ス可ラス又公ハ王ノ眷顧ト信
用トヲ受ケ而シテ誠實ニ王ノ利ヲ謀リタリト云フ故ニ今
新内閣ヲ組織スルニ當リ公ヲ其中ニ列セシムルヲ最モ必
要ナリシヲ以テ遂ニ公ヲシテ其會テ一身上若クハ政治上
ノ關係ヲ有セサル所ノ一黨ノ人々ト相合メ内閣ニ列セシ
ムルニ至リタリ其他王ノ黨友ノ如キモ之ヲ除ク可カラサ
ルニツキ之ヲ禮遇シテ内閣ニ列セシメタリキ而シテシド
マウス公ハ屢々王ニ接シテ爲メニ他人ノ猜忌ヲ招カン
ヲ恐レ内閣議長ノ職ヲ拒ミテ僅カニ御璽官ノ職ヲ受ケタ
リ
シドマウス公ノ政友ヲ内閣ニ列セシムルヲ能ハサリシヲ
以テ公ノ説ニ勢力ヲ加ヘシメンガ爲メニ英國裁判官長エ

陸軍ノ制度ニ
就キ王ト内閣
トノ異議

レンボロー公ヲ同職ニ舉ケ以テ公ヲ助ケシメタリ抑裁判官ヲシテ國王勢威ノ外ニ獨立セシムルハ我法律上ノ政略トスル所ナリト雖モ今ヤ第一等ノ刑事裁判官ニシテ王ノ忠誠ナル助言者ノ一人トナルニ至レリ然レモ諸宰相ノ勢力強大ナリシヲ以テ議院ニ於テ此舉ヲ辨護シテ以テ之ヲ遂ルニ至レリ而シテ其辨護ハ專ラマンズフィールド公ノ先例ニ據リテ以テ言ヲ立テタリ然レモ此事ヤ議院ノ討論ニ於テ大ニ非難ヲ受ケ又輿論ノ痛ク難議スル所トナレリ新内閣ノ組織完ク成ルニ先ダチ王ハ其特權ナリト信スル所ニ對シテ攻撃ヲ受ケタリ二月一日グレンヅル公ハ陸軍ノ制度ヲ改革センコトヲ王ニ奏セリ而シテ是レカ爲メニ陸軍ハ大總督ノ手ヲ經テ王ノ直轄ス可キ者ナル乎將タ内閣

コンソバグレイイニキアフ

千八百七年陸
海軍役案ニ付
キ王ト内閣ト
ノ異議

ニ於テ之ヲ監督スヘキ者ナル乎ノ疑問起レリ王ハ陸軍ヲ監督スルノ權ハ國王ノミニ屬スル所ニシテ内閣ハ兵士ヲ募リ其給料及ヒ衣服ヲ供スルノ外毫モ是ニ干渉ス可カラサル者ナリト斷言セリグレンヅル公ハ此說ノ全ク憲法ニ背違セルニ驚キ敢テ是レニ服セサリキ是ヲ以テ將ニ成テントスル所ノ内閣ノ組織モ一時ハ或ハ破壊セントスルノ狀アリキ然レモ翌日グレンヅル公ハ書ヲ王ニ呈シテ陸軍ニ關スル何等ノ改革ト雖モ王ノ制可チ經サル以上ハ之ヲ實行セサル旨ヲ奏セリ而シテ斯ク修整セル奏議ニ對シテハ非難ヲ入ル、コト能ハサルヲ以テ王モ之ヲ諾セリグレンヅル公ノ内閣ハ朝廷ニ於テ是レニ忍ヒシ間ハ其位置ヲ保ツチ得タリ然レモ内閣ニ於テ敢テ王ノ宗教上ノ意

見ニ觸ル、所ノ處置ニ出テントシタルカ爲メニ彼ノビツト氏ノ内閣カ一千八百一年ニ於テ破レタルカ如ク一朝ニシテ其位置ヲ失フニ至レリ蓋シ内閣ハ羅馬舊教黨ヲ協和セシメンカ爲メニ陸軍士官ニシテ舊教黨及ヒ非國教黨ニ属スル者ヨリ剝奪セル權利ノ幾分ヲ回復セゾテ主張セリ然レモ内閣ハ其議案ヲ草スルニ當リ明瞭ニ其諸箇條ヲ説明スルヲ怠リシ者ト見ヘタリ其然ラストスルモ十分ニ王ヲシテ其主意ヲ了解セシムルヲ能ハサリキ是ヲ以テ内閣ニ於テハ王ハ枉ケテ是ニ同意セシモノト信シ即チ此議案ヲ提出シタリシニ王ノ此議案ヲ惡ムヲ極メテ甚シク大ニ之ヲ非トセリ假令ヒ此議案ヲシテ公正ニノ政界ノ宜シキヲ得タル者ナリトスルモ當時ニ在テ如此キ議案ヲ出

王黨ノ盡力

スハ寧ロ淺慮ノ處置ナリト謂ハサル可カラス内閣諸相ハ王ノ毫モ舊教黨ヲ赦免スルノ意ナキヲ知ラサルニ非ラサレハビツト氏ノ經驗ニ鑑ミテ如此キ處置ニ出ツルノ危キヲ悟ラサル可カラス大法官ノ如キハ内閣諸相カ敢テ冒ス所ノ危険ヲ前知シエレンボロト公及ヒシドマウス公ト共ニ此議案ノ非ナルヲ激論セリ又政府ニ黨スル者ハ此處置ヲ稱シテ自殺ノ處置ナリト云ヘリ王ニ黨スルモノ及ヒ内閣ニ抗スルモノニ在テハ王ノ宗教心ヲ利用スルノ好機ヲ失ハスシテ直チニ王ヲ敵シテ其宰相ニ抗シテ自家ノ權勢ヲ張ラシメントセリ三月四日シドマウス公ハ此議案ノ主意及ヒ細目ヲ王ニ示シ自カラ是ニ反對セントスルノ意ヲ告ケ且其職ヲ辭スルヲテグレノゾ

井ル公ニ通シタリ十二日ポルトランド公ハ王ニ書ヲ呈シ王
 カ此議按ニ同意セサリシヲ信スル旨ヲ述ヘ又上院ニ於
 テ必ス此議案ヲ破棄シ得ヘキコトヲ説キ且曰ク然レモ此
 目的ヲ達センカ爲メニハ明カニ陛下ノ意見ヲ知ラシメ以
 テ現時ノ内閣諸相ヲシテ此問題ニ關シテ遁路ヲ開クヲ能
 ハサラシメ又諸相ヲ陛下カ此議按ヲ制可セサルノミナ
 ラス飽ク迄モ全力ヲ尽シテ之ニ抗セントスルノ決心ナル
 ヲ知ラサル爲テサラシムルノ最モ緊要ナルヲ余ハ
 陛下ニ告ケカルヲ得スト公ハ同日或者ヘ書ヲ與ヘテ曰ク
 陛下ハ此議案ニ反對スルノ起立ヲ爲サシムヘキ命令ヲ余
 ノ姪シヨージン公及ヒセームスタイン公ニ與ヘタリト翌日
 王后ノ宮殿ヨリ一人ノ使者來リマラムスピリー公ニ告ケ

テ曰ク羅馬舊教黨ノ權利剝奪ヲ寛弛セントスルカ如キ諸
 議按ニ關シテ陛下ノ冀望感情計畫ハ毫モ舊ニ異ナラス又
 今後ト雖モ決シテ異ナルヲアラサルヘシト又王ハ自カラ
 グレンヅ井ル公ニ告ケテ曰ク朕ハ心中此議按ニ抗セサルヲ
 得サルモノアルヲ知ラシムルハ不正ノ事ニ非サルヲ信
 スルナリト

王ノ嫌忌セル
 議按ヲ捐棄セ
 ル
 王内閣ニ誓約
 ナシ内閣交
 迭ス

以上述アル如クナルヲ以テ夫ノ廷臣及ヒ其他隱謀ヲ企ツ
 ル所ノ政治家輩カ機ニ乘シテ王ト内閣トヲ離間シ議院ノ
 議按ヲ破ラシカ爲メニ動モスレハ王ノ名ヲ用ヒントスル
 ノ狀アルハ毫モ二十五年前ノ有様ニ異ナラサルナリ又王
 ニ在テモ往時ニ於ケルカ如ク自カラ憲法ニ背違シテ議院
 ノ討論ニ干渉スルヲ躊躇セサルナリ然レモ今回ニ於テハ

内閣ハ自カラ其議案ヲ捐棄シタルヲ以テ王ノ黨友ハ議院ニ於テ内閣ノ攻撃ヲ違フスルヲ能ハサリキ而シテ内閣ハ其議案ヲ捐棄スルヲ王ニ告クルニ際シ再ヒ淺慮ノ處置ニ出テ而シテ其淺慮ナル更ニ甚キ者アリ蓋内閣ハ其意見書中ニ若シ舊政黨ニテ願書ヲ出スヲアル時ハ内閣ハ其自カラ信スル所ヲ公言スルノ權利ヲ失ハサルヘキヲ述ヘ且内閣カ適當ナリト思考スル所ノ議案ヲ時々陛下ニ奏ス可キヲ述ヘタリ王ハ意見書中此等ノ語ヲ删除センヲチ要求シタルノミナラス更ニ内閣ニ向テ如何ナル時會ニ際スルモ再ヒ舊政黨赦免ノ事ヲ王ニ奏セサルヘク又此問題ニ就テハ如何ナル助言ヲモ王ニ奏セサルヘキ旨ノ誓約書ヲ出タサンヲチ要求シタリ然レモ苟モ責任宰相タルヘキ

者ハ此ノ如キ要求ニ從フヲ能ハサルナリ蓋シ諸宰相ハ一切政務ノ責任ヲ負ヒ又國家ヲ善治スルノ任ニ當テサル可カラス然ルニ其既ニ提出セル議案ヲ自カラ捐棄シタルノミナラス今又其將來ノ自由ヲ束縛セラレ自カラ愛爾蘭ノ平和ニ危險ナリト信スル所ノ政略ヲ固守セサル可カラサルノ要求ヲ受ルニ會セリ左レハ王ト雖モ如此キ從順ヲ宰相ニ期スルヲ能ハサルヘキナリ而シ宰相ハ果シテ此要求ヲ拒ミタルヲ以テ王ハポルトランド公及ヒベルセヴル氏ヲ舉ケテ新内閣ヲ組織セントセリ王ハ内閣トノ此爭論ヲ以テ自家ノ王位ニ關スルノ爭論ナリト思惟セシカ如シ王ノ言ニ曰ク朕ハ新教國ノ新教王ヲササルヘカラス然ラサレハ寧ロ王タル可ラスト然レモ王ハ其意ノ欲スル所ニ從

ノ不認可ヲ受クヘシト豫期スル所ノ議案ハ宰相ニ於テ初
 メヨリ之ヲ出サ、レハ以テ如此キ弊害ヲ救フヲ得ヘキノ
 ミ下加之前内閣ハ其辭職ノ理由ヲ説明スルニ當リ議院コ
 於テ王ノ非ヲ擧ケサリシノ故ヲ以テ非難ヲ受ケタリペル
 セザル氏ハ前内閣ヲ罷免セシ後ニ至ル迄ハ王ハ秘密助言
 者ト面議セシナキヲ述ヘ王カ誓約ヲ要求シタルガ如キ
 ハ王ノ獨斷ニ出テシ所ニシテ秘密ノ助言ヲ受クタルニ原
 因スルニ非サルコトヲ証セリ氏曰ク王ガ如此キ要求ヲ爲シ
 タル者ハ初メ前内閣ニ於テ王ノ自由ヲ制限セントシタル
 ガ爲メナリ故ニ此要求ハ前内閣ガ自カラ招キタルモノナ
 リト
 シルサミエルロミューリーノ如キハ若シ宰相ニ於テ如此キ誓

約ヲ諾スルニ於テハ是レ則チ重罪ヲ犯シタル者ト云ハサ
 ル可カラズト明言スルニ至レリ而シテ氏ハ王ハ秘密ノ助
 言ヲ受ケザリキト云ヘルメルセザル氏ノ説ニ答ヘテ曰ク
 抑國王ハ助言ヲ受ケスシテ王權ヲ行フヲ得ス國王ハ何
 人タルテ問ハス其助言ヲ受クルヲ得ン唯タ助言者ハ其助
 言セシコト及ヒ國王ノ行爲ニ關シ其責任ニ當ラサル可カラ
 ス此憲法上ノ定則ハ王室ヲ保護スルニ於テ最大緊要ノモ
 ノナリ是レト反對スル所ノ主義ノ行ハレシカ爲メニ如何
 ナル慘毒ヲ流セシカハ歴史ニ徴シテ歴々見ルヘキノミト
 又ホワイトブレッド氏曰ク今新内閣諸相カ王ハ助言ヲ受ケス
 シテ事ヲ行ヘリト明言シタルハ是レ取リモ直サス茲ニ愁
 訴スル所ノ處置ノ責任ヲ自家ニ負擔スルヲ避ケ以テ王ヲ

千八百七年内
閣ノ交迭ニ關
シテ下院ノ行
爲

ハ内閣ヲ破壊シ議院ヲ制御シ得ルノ王ナリ何ソ如此キ
區々タル内閣ノ攻撃ニ恐懼スルヲアラシヤ王ハ大權ヲ有
スルビツト氏ノ如キモ尙之ヲ壓服セリ而シテグレンヂル公
ノ如キモ亦其足下ニ唯伏セサルヘカヲサルニ至レリ
如此ク王ノ特權ヲ以テ内閣ヲ破壊スルハ憲法上ニ取リ極
メテ危険ノ事タルヲ以テ何ソ議院ニ於テ之ヲ黙々ニ附
スルヲ爲サンヤ即チ三月廿六日上下兩院ニ於テ共ニ此問
題ヲ討議セリ而シテ四月九日ブランド氏ハ下院ニ於テ議
ヲ起シテ曰ク陛下ノ忠誠ナル宰相ニシテ國家ノ幸福ト安
寧ヲ保護セシカ爲メニ事情止ムヲ得サルノ助言ト雖モ尙
ホ之ヲ陛下ニ奏セサルヘシトノ誓約ヲ爲シ以テ自家ノ自
由ヲ束縛スルカ如キハ其第一ノ義務ヲ破ルモノナリト此

議ヲ贊スル者曰ク國王ハ責任ナキ者ナリ然ルニ其宰相ニ
シテ強ヒテ右等ノ誓約ヲ要求セラレ爲メニ政治ノ責任ヲ
自家ニ負擔スルヲ免レントスルニ於テハ人民ハ惡政ヲ防
クノ道ヲ失ハサルヲ得ス若シ宰相ニシテ此等ノ誓約ヲ諾
スルアラハ是レ樞密議員タルノ誓約ヲ破ルモノニシテ國
王ハ擅制者トナルニ至ルヘシト又彼ノ隱然背後ニ立テ私
カニ責任宰相ノ議案ヲ妨ケントスル所ノ秘密助言者ノ如
キモ非難ヲ受ケタリ然ルニ是ニ反スル者ハ曰ク宰相カ自
カラ捐棄セシ所ニシテ且王ノ非認セシ所ノ議案ヲ更ニ討
論上ニ於テ之ヲ贊助スルノ權アルヲ述ヘタルカ如キハ
憲法ニ背違セルモノナリ何トナレハ是レ則チ王ヲシテ直
接ニ議院ト反對セシムルニ至ルノ傾向アレハナリ蓋シ王

ノ不認可ヲ受クヘシト豫期スル所ノ議案ハ宰相ニ於テ初
 メヨリ之ヲ出サ、レハ以テ如此キ弊害ヲ救フヲ得ヘキノ
 ミト加之前内閣ハ其辭職ノ理由ヲ説明スルニ當リ議院ニ
 於テ王ノ非ヲ舉ケサリシノ故ヲ以テ非難ヲ受ケタリペル
 セザル氏ハ前内閣ヲ罷免セシ後ニ至ル迄ハ王ハ秘密助言
 者ト面議セシナキヲ述ヘ王カ誓約ヲ要求シタルガ如キ
 ハ王ノ獨斷ニ出テシ所ニシテ秘密ノ助言ヲ受ケタルニ原
 因スルニ非サルヲ証セリ氏曰ク王ガ如此キ要求ヲ爲シ
 タル者ハ初メ前内閣ニ於テ王ノ自由ヲ制限セントシタル
 ガ爲メナリ故ニ此要求ハ前内閣ガ自カラ招キタルモノナ
 リト
 シルサミエル、ロミュリトノ如キハ若シ宰相ニ於テ如此キ誓

約ヲ諾スルニ於テハ是レ則チ重罪ヲ犯シタル者ト云ハサ
 ル可カラスト明言スルニ至レリ而シテ氏ハ王ハ秘密ノ助
 言ヲ受ケザリキト云ヘルセザル氏ノ説ニ答ヘテ曰ク
 抑國王ハ助言ヲ受ケスシテ王權ヲ行フヲ得ス國王ハ何
 人タルテ問ハス其助言ヲ受クルヲ得ン唯タ助言者ハ其助
 言セシト及ヒ國王ノ行爲ニ關シ其責任ニ當ラサル可カラ
 ス此憲法上ノ定則ハ王室ヲ保護スルニ於テ最大緊要ノモ
 ノナリ是レト反對スル所ノ主義ノ行ハレシカ爲メニ如何
 ナル慘毒ヲ流セシカハ歴史ニ徴シテ歴々見ルヘキノミト
 又ホワイトブレッド氏曰ク今新内閣諸相カ王ハ助言ヲ受ケス
 シテ事ヲ行ヘリト明言シタルハ是レ取リモ直サス茲ニ愁
 訴スル所ノ處置ノ責任ヲ自家ニ負擔スルヲ避ケ以テ王ヲ

シテ自カテ其非責ニ當ラシメ憲法上ニ定メタル保護ヲ王ニ與ヘサラントスル者ナリ然レニ諸相ハ決シテ其責任ヲ免ル、^一能ハス如何トナレハ諸相ニ於テ其責任ヲ避クントスルモ既ニ其職ヲ受ケタル以上ハ其時ニ於テ此責任ヲ負擔シタル者ナレハナリト蓋シ至論ト云フヘシ然ルニホーウツク公ハ王カ助言ヲ受ケスシテ事ヲ行ヘリト云フノ説ヲ拒ミ王ノ精神ヲ誘惑セント勉メタル秘密ノ助言者アルヲ明言セリ其説ニ曰ク王カ前内閣ニ誓約ヲ要求シタル前日即チ土曜日ニ於テエルドン公ハ王ニ謁見セリ而シテ公及ヒハックスブリー公ハ新内閣ノ組織ニ着手スルニ先ダチ共ニ王ノ諮議ニ預リタリ故ニ此二氏ハ王ノ爲メニ責任ヲ負擔スヘキノ助言者ナリトケンニング氏ハ此

等ノ説ニ答ヘテ曰クエルドン公カウインドソールノ宮廷ニ拜候シタルハ内閣更迭一週期前ノ土曜日ノ事ナリ而シテ公ノ拜候ハ此等ノ事件ニ關スルニアラスシテ別ニ密談アリシカ爲ナリ且公ハ宮廷ニ拜候スルニ先ダチ其目的ヲグレンヴル公ニ明示シ其他ノ事件ヲ陛下ニ奏セサルヘキヲ約シタリト氏ハ又曰クポルトラント公ベルセヴル氏及ヒ余ノ如キハ懇篤ニ説明ヲ爲シ王ト前内閣ノ分裂ヲ救ハンコトヲ勉メタリト結末ニ至リ氏ハ曰ク我諸宰相ハ止ムヲ得サルノ事情ニ會シ義ニ於テ國民ニ訴ヘサル可カラサルニ至ルモ尙ホ王ノ黨ニ立テ王ヲ保護センコトヲ決心セリト此恐嚇ノ演説ニ對シヘンリーベッチー公曰ク既ニ憲法上ニ對シテ不正ノ處置アリ仮令ヒ斯カル恐嚇ヲ試ムルト雖モ爲

メニ我下院ヲシテ不正ヲ非トスルノ情ヲ覆ハシムルヲ能ハサルナリト可否決ヲ取ルノ際ホーウィツク公ハ自党ノ多數ナルヲ必期シ耳房按議場ノ左右ニアル室ニシテ可否決ヲ取ルトキ可トスル者ト否トスル者ト各左右ノ室ニ入ル是レ可否ノ數ヲ算シ易カラシムルカ爲メナリニ於テ諸議員ニ語テ曰ク我黨ハ此勝利ニ乘シテ陛下ニ要求ヲ爲シ以テ先夜ノ恐嚇ニ報ヒサル可カラズ蓋シ其恐嚇ノ甚タシキ我議院ノ歴史ニ於テ未タ其例ヲ聞カサル所ナリト然レモ王及ヒ王ノ黨方ハ其勢力強大ニシテ反對黨ノ能ク當ルヘキニアラズ是ヲ以テ反對黨中ニモ心ヲ政府ニ傾クル者アリシヲ以テ反對黨ハ少數ニシテ纔カニ三十二名ナリキ

上院ノ行爲

四月十三日上院ニ於テモスタツフォルド公ノ提出セル同様ノ議案ニ就キ討論ヲ開ケリ此時最モ著ルシカリシハエ

スキン公ノ演説ニシテ公ハ曾テ此事ニ關シテ其意見ヲ王ニ示セシヲアリキ公ハ新敎黨ナルヲ以テ舊敎黨ノ要求ヲ可トスル者ニアラス然レモ公ハ夫ノ即位誓約ノ爲メニ王ハ前内閣ノ議案ニ同意スルヲ得スト云フ説ノ愚ナルヲ嘲笑セリ公ノ説ニ曰ク王ハ既ニ舊敎黨ヲシテ陸軍ノ少佐及ヒ大佐タルヲ許ルス所ノ一千七百九十三年ノ條例ニ同意セルコトアラスヤ此事誓約ヲ破リシニアラス然ラハ則チ舊敎黨ヲシテ參謀士官ヲシムルノヲ焉ソ王ノ即位誓約ヲ破ルト云ヲ得ン乎ト又公ハ王カ前内閣ニ要求シタル誓約ノ事ニ關シテ論難シテ曰ク王ニ於テ自カラ自家行爲ノ規律ヲ立テ宰相ヲシテ之ニ助言ヲ入ル、能ハサラシムルハ我國ノ法律及ヒ習慣ニ合ヒタルノ所行ト云フヘキ乎若

シ之ヲ然リトセハ王ハ宰相ノ助言ヲ受ケスシテ自カラ如何ナル助言ヲ受クヘキカラ定ムルニ至ラン如此ナレハ十分ニ公平ノ助言ヲ爲シ且其助言シタル處置ニ關シ公衆ニ對シテ責任ヲ負擔スヘキヲ誓ヒタルノ宰相ト雖モ終ニ其義務ト權カトハ一偶ニ沮攔セラレ爲メニ國家ヲ滅亡セシムルニ至ルヘシト又王ノ一身上ノ責任ニ關シ公ハ論シテ曰ク國王ハ自カラ政治上ノ事務ヲ行フ能ハス故ニ政治上何等ノ事務タルヲ問ハス此等ノ事務ハ國王一箇ノ意志判斷即チ國王一箇ノ本心ニ出テタル者ナリト公言スル者アルモ我上院ノ境內ニ於テハ如此キ言ヲ受クヘカラス國家ノ主長タル國王ハ責任ヲ負擔スル所ノ諸臣ニ委託セル者ノ外ハ別ニ本心ヲ有セサル可ナリ國王ハ國家ノ諸官吏ニ

職位ノ印章ヲ授ケタル以上ハ國家ノ事ニ關スル國王ノ本心ハ此等ノ印章ト共ニ諸官吏ニ移リシ者ナリ故ニ政治上ノ事務ハ國王自カラ之ヲ行フ能ハス國王ハ助言ヲ受ケスシテ事ヲ行フ能ハサルナリ而シテ其事ノ何人ノ心ヨリ起リシチ問ハス之ヲ行フト否トチ決スルハ一ニ職位ヲ有スル所ノ官吏ノ權ニアリト

ハロウビー公ハ此等ノ動議ハ我上院ヲシテ陛下ノ一身上ノ行爲ヲ是非スルノ地位ニ立タシムル者ナリト云ヘリ然レモ最モ巧ミニニ王ヲ保護シタルノ說ハセルキルク公ノ演說ナリ公曰ク國王ハ其宰相ヲ更迭セシメンカ爲メノ所行ニ關シ毫モ議院ニ對シテ責任ヲ負フヘキナシ而シテ王カ爲誓約ヲ要求シタルカ如キハ單ニ内閣ヲ更迭セシメンカ爲

メタルニ外ナラスシテ固ヨリ議院ノ是非スヘキ限リニア
 ラス下又シドマウス公ハ政府行政部ノ各事務ニ關シテハ
 必ス其責任ニ當ル所ノ助言者ナクンハアル可カラサルコ
 ナ許シ且説ヲ爲シテ曰ク國王ノ職務中一種ノ職務アリテ
 此等ノ職務ハ固ヨリ正當ナリト雖モ是レニ向テ責任ヲ附
 スルヲ要セサルノミナラス又其責任ヲ附スヘカラサルモ
 ノアリ故ニ此等ノ職務ハ國王一身上ノ行爲ナリト見做サ
 ル可カラサル所ニシテ憲法ノ間ク所ニアラスト抑國王
 ハ過惡ヲ爲ス能ハサル者ナリ而シテ王ノ現時ノ諸宰相ハ
 其職ニ就キタルカ爲メニ夫ノ前内閣ヲ罷免セシメタル處
 置ニ關シテ其責任ニ當ラサル可カラサルニ至リシ者ナリ
 故ニ以上ノ巧ミナル諸演説ノ目的トスル所ハ王及ヒ諸宰

相ヲシテ共ニ責任外ニ脱セシメントスルニ在リ然ルニ
 ラッデルダル公ハ此等ノ演説ノ憲法ニ背違セルヲ明示シ國
 王ハ別ニ自家ノ責任ヲ有スル能ハスト云フノ主義ヲ証セ
 ンカ爲メニダンピール公ノ實例ヲ擧ケタリ蓋シダンピール公
 ハ宰相タリシキ其犯シタル罪過ノ爲メニ彈劾セラレタリ
 シニ公ハ國王ヨリノ書面ヲ證據トシテ自カラ防カントセ
 リ然レモ佞令ヒ國王ノ命令ヲ奉シテ行ヒタルノ處置ト雖
 モ尙宰相タルモノ其責任ニ當ラサル可カラスト決セリ加
 之下院ニ於テハ公カ國王ノ書面ニ據テ辨護セントシタル
 ハ國王ヲシテ人民ノ増惡ヲ受ケシムルノ行爲ナルヲ以テ
 公ノ罪ヲ加フル者ナリト議決シタリキ是レラッデルダル公
 カ此實例ヲ引証セル所以ナリ又ホルランド公ノ如キモ同

一ノ議論ヲ布衍セリ蓋シ國王ノ各行爲ニツキ必ス其責任ニ當ルヘキ或ル助言者アラサル可カラサルハ爭フヘカラサル所ナリ然ルニ内閣黨ニ在テハ國王ノ一身ヲ前部ニ表出シ恰モ國王ヲシテ法庭ニ於テ裁判ヲ受ケシムルカ如ク國王ノ名ヲ濫用シ以テ自カラ守ルノ城郭トナセリ而シテ上院ニ於テハ八十一名ノ多數ヲ以テ之ヲ延期スルコト決セシヲ以テスタップホルド公ノ議案ハ終ニ擱置セラレタリ然レモ此問題ハ尙ホ終局ニ歸セズ四月十五日ダブリュール所ノ議ヲ出シ以テ此問題ヲ再起セリ然レモ此討論中何レノ黨ニ於テモ別ニ新説ヲ出タス者モアラサリシヲ以テ當日議案ノ順序ニ從ヒ他ノ問題ニ移リ以テ此問題ノ局ヲ

千八百七年四月十五日リットルトン氏ノ動議

結ヘリ

前内閣ノ非策

抑政畧上ノ問題トシテ之ヲ考察スルキハ前内閣カ其意見書ニ於テ公然權利ヲ保護シタルハ策ノ得タルモノニアラス内閣ハ王ト自家トノ間ニ不和ヲ喚起スルノ原因トナリシ所ノ議案ハ既ニ之ヲ捐棄シタリ而シテ内閣諸相ハ其宰相タルノ資格ヲ有スル以上ハ云々ノ事ヲ意見書ニ明記セサルモ後來其適當ナリト思惟スル所ノ助言ハ何ノ時ヲ問ハス之ヲ爲スヲ得ヘシ然ルニ内閣ハ其意見書ニ於テ公然權利ヲ保護セントシタルヲ以テ忽チ其復讐トシテ夫ノ惡ムヘキ誓約ヲ要求セラルヘニ至レリ是レ前内閣ノ處置ヲ策ノ得タル者ト謂フヘカラサル所以ナリ然レモ今日ニ於テハ苟モ憲法ヲ貴重スルノ記者ハ誰レカ王ノ要求セル誓

千八百七年四月議院ノ解散

約ヲ可トスルモノアラシヤ又前内閣カ此誓約ヲ拒ミタル
 カ爲メニ是レニ嗣テ新内閣ヲ組織セシ所ノ諸宰相ハ恰モ
 自カラ此等ノ處置ヲ助言シタルト同様ニ其責任ヲ自家ニ
 負擔セサルヘカラスト主張セサル者アラシヤ
 新議院ハ唯第一年期ノ集會ヲ開キタルニ過キスト雖モ今
 ヤ政府ハ之ヲ解散センヲ決セリ初メ政府ハ世上舊政黨
 ヲ非トスル所ノ輿論ノ衰ヘンヲ恐レタリト雖モ終ニ其
 輿論大ニ行ハレタルヲ以テ政府ハ此機ニ乘シテ議院ヲ解
 散セリ然レモ政府カ斯ク人民ニ訴ヘテ以テ決セント欲ス
 ル所ノ要目ハ前回王權施行ノ正否ヲ定メントスルニアリ
 四月廿七日王ノ名代員ハ其演說ニ於テ王ノ言ヲ述テ曰ク
 前回ノ事件ハ今尙我人民ノ記憶ニ存スル所ニシテ朕ハ此

事ニ關シ我人民ノ輿情ニ訴ヘンヲ願フナリト而シテ王
 ハ此事ニ關シ大ニ人民ノ意見ヲ促セリ王ノ言曰ク朕ハ
 我良心ニ於テ前回ノ處置ノ至正ナルヲ信用スルヲ明言
 セサル可カラス而シテ我王權ハ神聖ナル宗教上ノ義務ヲ
 奉シテ之ヲ保有スル者ニシテ苟モ此義務ニ合ヒ我國家ノ
 幸福ヲ増進シ我憲法ノ安全ヲ助クル以上ハ我王權ヲ施行
 スルモ人民ハ必ス之ヲ補翼セサル可カラス而シテ前回ノ
 事件ノ如キハ人民ヲシテ此決心ヲ表セシムルノ好機ヲ與
 ヘタル者ナリト夫レ如此ク王ハ前回ノ王權施行ヲ以テ即
 位誓約ニ從ヒタルモノトナシ以テ新内閣ノ爲メニ人民ノ
 勤王心ヲ喚發セシメ人民ヲシテ王ヲ親愛シ新教制度ニ熱
 心ナルノ情ヲ起サシメントセリ而シテ如此ク人民ノ勤王

心及ヒ宗教心ニ訴ヘサルモ王ノ權勢ノミチ以テ新内閣ノ爲メニ多數ヲ得ルニ足レリ況ンヤ王ノ用意ノ周到ナル如此キニ於テラヤ新内閣ガ十分ニ勝ヲ制シタルハ又怪ムニ足ラサルナリ

新議院ノ集會
○千八百七年
七月二十六日
奏詞ノ修整

更ニ新議院ノ開會スルニ及ヒ王ニ呈スルノ奏詞ヲ議スルノ際上下兩院共ニ前回ノ議院解散ハ理由ナクシテ且有害ナル口實ニ出テタル者トナシ之ヲ非難スル所ノ修整說ヲ出タセリ然レ此等ノ說ハ非常ノ多數ヲ以テ廢棄セラレタリ以上陳述スルガ如ク王ノ意志ハ終ニ全勝ヲ制シ復タ王權ノ是非ヲ議スルモノナキニ至レリ爾後王ノ權力ハ最強侵ス可カラサルモノニシテ王ハ其内閣ニ舉用セル君權黨ノ諸宰相ニ之レヲ托セリ彼ノ王ノ黨友ナル者尙ホ之レ無キ

攝政ヲ置ク前
ノ三年間

ニアラサリシト雖ヒ王ノ主義政畧トスル所宰相ノ意見ト相符合セシヲ以テ責任ナキ秘密ノ助言者ヲ要セサルニ至レリ如此ク五十年間ノ爭論ヲ經テ再ヒ擅制ノ主義ヲ確立シタリト雖ヒ其施治タル今將サニ終ヲ告ントスルニ至レリ蓋シ王ノ意志ハ極テ頑牢ニシテ枉クヘカラサル者アリシト雖ヒ病ニ罹リシカ爲メニ大ニ其氣力ヲ失ヒタルヲ以テ王カ自カラ施治セント決心セル王ノ一世モ其晩年ニ及ンテハ幽靈及ヒ攝政ノ一時期ヲ以テ終ルニ至レリ(案)王ハ政治ヲ主ドル能ハサルニ至リシヲ以テウエールス太子ヲ指シテ指スモノナリ

英國憲法史第一編終

明治十五年九月三十日版權免許
明治十六年三月三十日出版

定價金七拾五錢

譯者

神奈川縣平民

島田三郎

東京麴町區中六番町卅一番地

兵庫縣士族

乘竹孝太郎

東京牛込區通寺町六番地

同

東京府平民

角田眞平

東京神田區猿樂町二十一番地

出版者

自由出版會社

刊行所

自由出版會社

東京々橋區竹川町十九番地

自由出版會社刊行書目

○第一回之部

英國トッド著 尾崎行雄譯

○英國議院政治論

內

原名 パーリメント
リ、ガザアメント

全十冊

內閣更迭史

一冊百七十五ページ 定價金五拾五錢
社員賣渡金三十錢二厘五毛

內閣會議篇

一冊三百十八ページ 定價金壹圓二十錢
社員賣渡金六拾六錢

至魯 名一 王室篇

一冊百卅八ページ 定價金四拾五錢
社員賣渡金廿四錢七厘五毛

英國ヘンサム著 藤田四郎譯

○政治眞論 名一

主權辨妄 全

一冊百九十二ページ 定價金七十錢
社員賣渡金三十八錢五厘

中村義三編纂

○内外政黨事情

全

一冊二百六ページ 定價金七十錢
社員賣渡金三十八錢五厘

但政治眞論内外政黨事情ノ兩書ハ當時切實候(但シ再版不仕候)

○第二回之部

○英國議院政治論

全十冊內

總論并ニ

合卷

一冊百廿七ページ 定價金四十五錢
社員賣渡金廿五錢

制度沿革史

佛國シヤルボンニエー著 米田精譯

○歐米 代議法鑑

全四卷內

第一卷 白耳義、健馬、西班牙、佛蘭西、瑞士、希臘之部

一冊百廿六ページ 定價金四十五錢
社員賣渡金廿五錢

英國ロルド、ロツテスレー著 青木匡譯

○政法原論

全四冊內

一冊百廿ページ 定價金四十五錢
社員賣渡金廿五錢

佛國ナケー著 奧宮健之譯

○共和原理

上下二卷 內上卷

一冊三百十四ページ 定價金壹圓
社員賣渡金五十五錢

藤田四郎著

○歐米政黨沿革史

全四冊 內一卷

一冊二百四十四ページ 定價八十五錢
社員賣渡四十六錢八厘

總論之部

英國パツクル原著土居光華漆間眞學合譯

○自由之理評論 全 一冊貳百ペーシ定價七十錢
社員賣渡金三拾八錢五厘

○第三回之部

○英國議院政治論

王權政府諸會議篇
議院政府樞密院篇

合卷

全十冊內 一冊百十ペーシ定價金四十錢
社員賣渡金二十二錢

○共和原理

上下二冊
內下卷

一冊三百ペーシ定價金壹圓
社員賣渡金二十二錢

英國マツケンジョー著 川又苗譯

○十九世紀政事沿革史 全三卷 一冊三百廿ペーシ定價金壹圓十錢
內上卷 社員賣渡金六拾錢〇五厘

英國スチーベン著 小林營智譯

○自由平等論 上下二冊 一冊三百ペーシ定價金一圓
內上卷 社員賣渡金五十五

佛國ギョー著 漆間眞學重譯

○歐洲代議政體起原史 全四冊內 一冊三百ペーシ定價金一圓十錢
第一卷 社員賣渡金六拾錢〇五厘

○第四回之部

英國ノ一著 島田三郎 乘竹孝太郎同譯

○英國憲法史 全十二冊之
內第一卷

國王之威權并特權 一冊二百十ペーシ定價金七拾五錢
社員賣渡金三十七錢五厘

○英國議院政治論

全十冊之
內第五卷 一冊四百ペーシ定價金壹圓四十五錢
社員賣渡金四拾二錢五厘

內閣執政篇

○歐米代議法鑑 全四冊
之內

第二卷 日耳曼帝國普魯士 一冊百四十ペーシ定價金五拾錢
巴威也拉薩克斯瓦 社員賣渡金二十五錢
敦堡澳地利匈牙利
拉馬尼之部

○政法原論 全四冊之內 一冊百廿ペーシ定價金四十五錢
第二卷 社員賣渡金二十二錢五厘

佛國ヘルモレー著 林庸介譯

○ 社會論 全三冊之內 第一卷 一冊二百ペーシ定價金七拾錢 社員賣渡金三十五錢

英國フオーセツト著 澁谷慥爾譯

○ 政治談 全二卷之內 內上卷 一冊三百ペーシ定價金一圓 社員賣渡金五拾錢

以上



特17

222

英国憲法史

1

国立国会図書館

031431-001-2

特17-222

英国憲法史 第1, 2卷

エルスキン・メー/著

M16

BBE-0017



